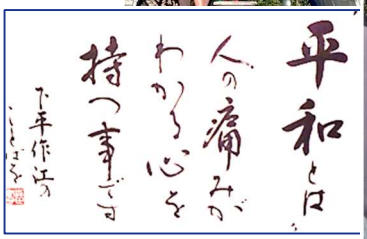
強く正しく明るく

八幡小だより

開校 150 周年目の山鹿市立八幡小学校
令和 6 年度学校だより No.13
2024.11.25（月）発行　校長　森 毎恵

校訓「強く　正しく　明るく」　**教育目標**「ふるさとを愛し、夢の実現に向かって考動する児童の育成」
目指す児童像「強い子　正しい子　明るい子」

じっくり学んだ修学旅行　11 月 6・7 日～長崎・佐賀～



「6 年間の学びを修める」修学旅行。その名の通りバスに乗車してからカルチャースポーツセンターに帰り着く直前まで、ルールを守って協力し合い、じっくり学んだ 2 日間でした。

1 日目。城山小学校で被爆体験講話者の八木道子さんから実体験を伺いました。「これから皆さんが見学する所に「原子爆弾落下中心地」があるが、「落下」ではない。原子爆弾は人を殺傷するという目的をもって「投下」された。原子爆弾の投下で、長崎市の当時の人口 24 万人の内、3 分の 1 の人口の 7 万人以上が爆死し、3 分の 1（7 万人）はその後、原爆後遺症等で亡くなった。いとこ家族 5 人が全滅だった。城山小学校の児童 1400 人の内、生き残ることができたのはたった 48 人。児童の 700 人は、家族も亡くなっているため、原爆死没者名簿に名前も残せず亡くなっている。実際、「長崎市無縁死没者追悼記念堂」には子供のお骨が多く収められている。生き残った人も戦後長い間、食べる物がない悲しさを味わった。いつもお腹がすいていて、空腹で山に入ってドングリやしいの実を拾って食べたりもした。終戦後 6 年経っても修学旅行に持っていく米なんかなかった。今、世界では「核軍拡」が進み、強い危機感を抱いている。最後の被爆者が（みんな亡くなってしまって）この世からいなくなるその日が必ず来る。だからこそ皆さんが平和のバトンを引き継ぎ、平和の大切さを訴えてほしい。6 年生の皆さんが学んだことを 1 年生にもわかるように話してほしい。友達を大切にすること、人間を大切にすることを覚えておいてほしい。」と八木さんは熱く語られました。

八木さんのお話は、戦争は非日常なのではなく、自分と異なる人格や考え方、言動の人を否定し陰口を言ったり、排除しようとしたりする心の延長線上に繋がっていることに気づかされるものでした。

「他者を理解しようと努力し、人を大切にすること」を説かれた八木さんの話は、柔らかな心の子どもたちにしっかりと響いたことだと思います。山里小学校、如巳堂、浦上天主堂、永井隆記念館等をフィールドワークで巡る中で子ども自らが、耳目で確かめたこと、肌で感じ取ったことが多くあった修学旅行でした。

子ども認知症サポーター講座～4 年生～

山鹿市福祉協議会、「いつでんくるばい」の山下さん、学童の前畑先生、八玉会の皆様、区長・老人会・民生児童委員の皆様、他総勢２５人の方々がおいでくださいました。厚生労働省データによると、65 歳以上の高齢者における認知症と軽度認知障害（MCI）合計有病者率は 28％(2022 年時点)で、今や「誰もが認知症になりうる」という認識が一般的です。「認知症になってもやりがいや希望を持って暮らせるよう、認知症バリアフリー、社会参加機会の確保等が重要」とも述べられています。まずは、正しく知ることで決めつけや固定観念を払拭することが大切ですね。

以前聞いた、若年性認知症当事者の丹野智文さんの講演で、「できることが多くあるのに、できないと決めつけられ過剰な気遣いをされるのは辛い。私たちからできること、リスクを奪わないでほしい。」という思いを聞き、ハッとしました。当事者意識をもってまちづくりを進めていくことで、誰もが総活躍できる社会づくりができるのだと気づかされた出来事でした。

５年生、防災について学ぶ

自衛隊にお勤めの時尾さんから、能登半島地震発災時の自衛隊による救助の様子を中心に映像を交えてお話を伺いました。災害はいつ起こるかわかりません。「公助・共助・自助」について考える機会となりました。

お知らせ

11 月 30 日は授業参観・教育講演会・学級懇談会です。防寒準備をお願いします。